

News Release

2018年7月26日

日立オートモティブシステムズ株式会社

日立オートモティブシステムズの ADAS ECU が三菱自動車の「eK シリーズ」に採用

日立オートモティブシステムズ株式会社(社長執行役員&CEO:ブリス・コッホ/以下、日立オートモティブシステムズ)のADAS*1 ECU*2が、このたび、三菱自動車株式会社(取締役CEO:益子修/以下、三菱自動車)の「eKワゴン」「eKカスタム」「eKスペース」(3モデルを総称して「eKシリーズ」)向けに採用されました。eKシリーズは、予防安全性能が向上され、2018年5月に販売開始となった軽自動車です。

*1 ADAS: Advanced Driver Assistance System(先進運転支援システム)

*2 ECU: Electronic Control Unit(電子制御ユニット)

ADAS ECUは、車間距離制御(ACC: Adaptive Cruise Control)システムや衝突被害軽減ブレーキ(AEB: Autonomous Emergency Braking)システム、車線逸脱警報(LDW: Lane Departure Warning)システムなど、複数の先進運転支援システムの制御機能を単一のコントローラーに統合するものです。

日立オートモティブシステムズは、およそ40年にわたる市場実績を持つエンジンコントロールユニット*3の開発で培ってきている制御技術を生かしてADAS ECUを2007年に開発し、2009年以降、多くの車種に搭載され、量産実績を積み重ねてきました。このたび、ADAS ECUにおけるこれまでの市場実績が評価され、三菱自動車「eKシリーズ」への搭載が決定しました。

*3 エンジンコントロールユニット: エンジンの運転制御を電気的な補助装置を用いて行う際に、それらの部品や装置を総合的に制御するコントローラーのこと。

今回の三菱自動車「eKシリーズ」では、標準装備として、前方の車両や歩行者と衝突の危険があるときに警報や自動ブレーキで衝突被害を軽減、または衝突を回避する「衝突被害軽減ブレーキシステム」や、従来の誤発進抑制機能(前進時)に加え、後退時作動および歩行者対応(前進時)を追加した「踏み間違い衝突防止アシスト」などの先進運転支援システムが全車に搭載されています。これらの車は、高齢運転者に向けて安全運転をサポートする先進技術を搭載したクルマとして、国が推奨する新しい自動車安全コンセプトである「セーフティ・サポートカーS(サポカーS) ベーシック+」に該当しています。

また、標準車の上級グレードでは、車線を逸脱しそうになるとドライバーにメーター内の警告灯と警報音で注意を促す「車線逸脱警報システム」が追加搭載されており、「サポカーS ワイド」に対応しています。

日立オートモティブシステムズは、これらのサポカーSの予防安全機能をADAS ECUの技術で支援しており、高齢者を含むドライバーによる交通事故および歩行者や自転車などの巻き込みの防止に今後も貢献していきます。



予防安全性能を向上させた三菱自動車の「eK シリーズ」
(写真は『eK ワゴン「T Safety Package」』)



ADAS ECU

■会社概要

日立オートモティブシステムズ株式会社

本 社： 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル

事業内容： 自動車部品および産業用機械器具・システムの開発、製造、販売およびサービス

以 上